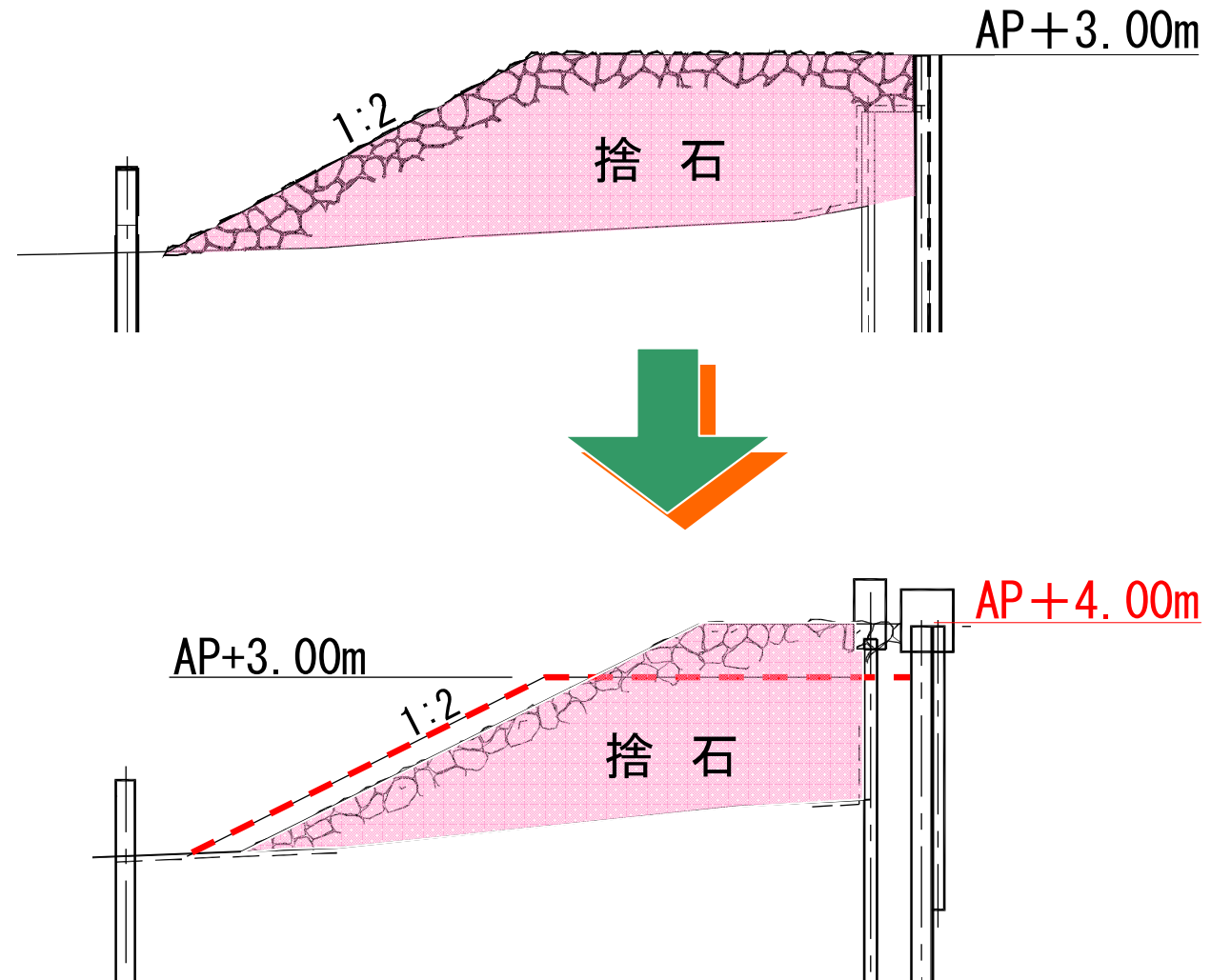


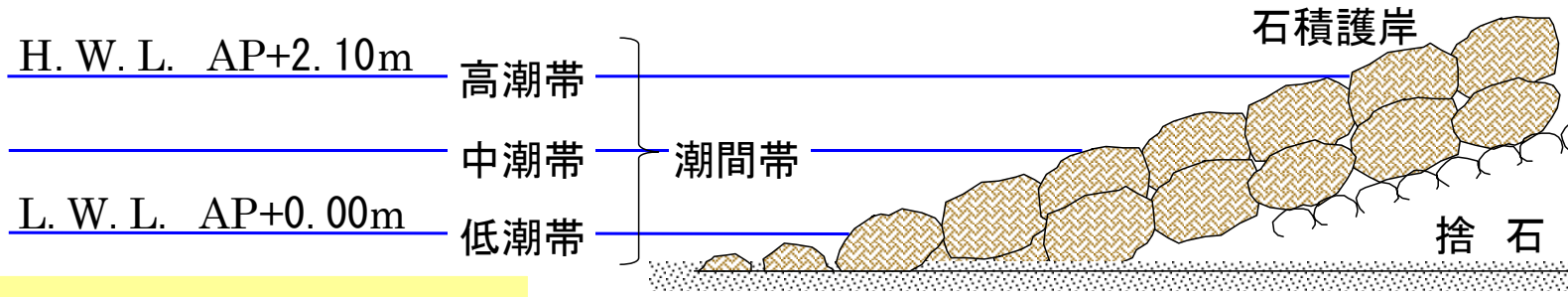
1. 防護 背後地の安全の確保

【施工方法に関する改善点】

来年度施工に当たっては、既設護岸を出来るだけ切り下げない施工方法を検討、実施する。



2. 環境 (1) 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ① 種類数



着生の初期段階であり、種類数は今後、変動することもあるが、**施工後約1ヶ月**の段階で、ほぼ施工前の水準に達している。

工事区域における潮間帯の種類数比較
(ベルトトランセクト法)

種類数/0.25㎡

	施工前 (直立護岸)	施工後約1ヶ月 (石積護岸)
高潮帯	6	4
中潮帯	3	5
低潮帯	8	8



2. 環境 (1) 護岸部潮間帯への生物の着生状況 ② 着生密度

工事区域における潮間帯生物優占種の着生密度

	施工前(直立護岸)	→	施工後約1ヶ月(石積護岸)
高潮帯	<ul style="list-style-type: none"> ・イワフジツボ (m^2当たりの被度:50%) ・タマキビガイ(2560個体/m^2) 		<ul style="list-style-type: none"> ・タテジマフジツボ (m^2当たりの被度:10%) ・タマキビガイ(9月現在確認なし)
中潮帯	<ul style="list-style-type: none"> ・イボニシ(8個体/m^2) ・マガキ(m^2当たりの被度:40%) 		<ul style="list-style-type: none"> ・イボニシ(8個体/m^2) ・マガキ(m^2当たりの被度:10%)
低潮帯	<ul style="list-style-type: none"> ・マガキ(m^2当たりの被度:5%) ・ケフサイソガニ(8個体/m^2) 		<ul style="list-style-type: none"> ・マガキ(m^2当たりの被度:10%) ・ケフサイソガニ(8個体/m^2)

生物種により着生密度にばらつきがみられるが、**施工後約1ヶ月の短期間で、一定水準の着生が確認されている。**着生密度のばらつきは、生活史の違いにより着生のピーク時期が異なるためと推測される。

